

第2回小牧市東部まちづくり審議会 議事録

1 開催日時

令和3年7月1日（木）15時00分から17時10分まで

2 開催場所

小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

3 出席委員（名簿順）

増田 昇（会長）	大阪府立大学名誉教授
大塚 俊幸（職務代理）	中部大学教授
古池 嘉和	名古屋学院大学教授
横山 幸司	滋賀大学教授
和田 貴充	空き家活用株式会社代表取締役 CEO
蛭原 義裕	一般社団法人小牧青年会議所
田中 秀治	社会福祉法人小牧市社会福祉協議会
秦野 利基	こまき市民活動ネットワーク
柴田 良奈	小牧市小中学校 PTA 連絡協議会桃ヶ丘小学校母親代表
落合 勝之	陶小学校区地域協議会
深堀 修	篠岡学区地域協議会
中川 豊	光ヶ丘小学校区地域協議会
小柳 松夫	桃ヶ丘小学校区地域協議会
村上 富士男	大城小学校区地域協議会
原 正行	公募委員
藤村 歩	公募委員
三木 孝行	公募委員
渡邊 比呂子	公募委員

4 欠席委員

稲垣 武磨	尾張中央農業協同組合
坪井 和巳	小牧商工会議所

5 オブザーバー

戸田 久嗣	愛知県県営住宅管理室
浅田 裕人	愛知県交通対策課
南木 宏和	独立行政法人都市再生機構
小塚 智也	一般財団法人桃花台センター

6 事務局

山下 史守朗	小牧市長
鵜飼 達市	都市政策部長

笹尾 拓也	都市政策部次長
平野 淳也	都市政策部東部まちづくり推進室長
加藤 宗礼	都市政策部東部まちづくり推進室 推進係長
横井 久志	都市政策部東部まちづくり推進室 専門員
林 亮佑	都市政策部東部まちづくり推進室 主任
桂川 隼斗	都市政策部東部まちづくり推進室 技師

7 関係部署

竹内 隆正	地域活性化営業部次長
宮下 美則	地域活性化営業部農政課長
白木 孝治	地域活性化営業部農政課農業振興係長

8 傍聴人数 5名

9 会議内容

1 開会

あいさつ

2 議事

- (1) 第1回審議会の振返り
- (2) 今後の進め方について
- (3) 東部振興構想策定に係る基本方針（案）について
- (4) まちの将来像とビジョン及び取組方針の素案について
- (5) その他

3 閉会

■議事録

【事務局】 それでは、定刻になりましたので始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまより第2回小牧市東部まちづくり審議会を開催させていただきます。

私は、都市政策部次長の笹尾でございます。よろしくお願いたします。

初めに、委員の交代がありましたので、御紹介させていただきます。

学識経験者で選出されておりました中京大学講師の加藤武志委員より、一身上の都合により辞任の申出がありました。加藤委員の後任として、滋賀大学教授、横山幸司様に委員就任していただくことになりました。

また、市区域内の公共的団体で、小牧市小中学校PTA連絡協議会桃ヶ丘小学校母親代表より選出されておりました林麻衣委員におかれましては、年度の母親代表の交代によりまして、新たに柴田良奈様に御就任いただくことになりました。御紹介をさせていただきました。

それから、本日配席表がありますが、三木委員については欠席の予定でしたが、出席をさせていただいております。

また、本日は当業務の支援委託の請負業者であります三菱UFJリサーチ&コンサルティングも

同席させていただいております。よろしくお願いいたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。

本日の配付資料は、次第に記載させていただいたとおり、資料1から資料6まで、それから参考資料といたしまして1と2がございます。それぞれ右上のほうに名前をつけさせていただいておりますので、御確認のほうをお願いいたします。

もし、不足等がございましたら、お申し出いただくようお願い申し上げます。

それでは、ないようでしたら進めさせていただきます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず初めに、増田会長より御挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【会長】 会長を仰せつかっております増田でございます。

前はリモートで参加させていただきましたので、対面でお会いするのは今回が初めてかと思っております。よろしくお願いいたしますと思っております。

大阪、愛知、名古屋等も少しコロナの状態が今若干落ち着いているみたいですが、東京はまだ予断を許さないような状況ですし、少しこういう状態は続くのかなと思っております。

さて、東部まちづくり審議会ですけれども、皆さん御存じのように、やっぱり地域まちづくりというのは、皆さん方の参画と協働並びに連携というのが不可欠でございますので、この会議も忌憚ない意見交換しながら、皆が共有できる目標等と、前回もいただいておりますように、絵に描いた餅に終わるのではなくて、行動の第一歩が踏み出せるような報告書をまとめたいと思っておりますので、よろしくお願いいたしますと思っております。

また、大塚先生には職務代理ということでサポートいただきます。よろしくお願いいたします。簡単ですけれども、御挨拶に代えさせていただきます。

【事務局】 ありがとうございます。

続きまして、山下市長より御挨拶を申し上げます。

【市長】 皆さん、こんにちは。

本日は、第2回東部まちづくり審議会ということで、委員の皆様方に大変お忙しい中お集まりいただきまして、こうして御審議をいただきますこと、大変ありがとうございます。感謝申し上げます。

前回、第1回ということで開催いただきました。

今、会長からお話がありましたけれども、また会長にもコロナ禍でありますけれども、やはり会長で取り回していただくのにリモートだとなかなかやりにくいということがあって、今日は御無理を言って、大阪のほうからお越しをいただきました。

大事な会議でもありますので、皆様にぜひ硬くならず、私としても、前回冒頭しかいみせませんでしたけれども、かなり始まりが硬い感じの印象を受けておりました。ざっくばらんにそれぞれのお立場、専門家の皆様方、地域の地元の皆様方、また公募をいただいた市民の皆様、それぞれのお立場でぜひ忌憚のない御意見を頂戴したいなど、そんなことを期待しております。よろしくお願いいたします。

さて、私から少しお話しさせていただきたいと思っております。

普段こういった審議会は、最初に諮問を申し上げてから全て皆様にお任せをして、私も出席をさせていただくということは少ないのですが、大事な会議でありまして、今日はあえて出席をしてきたところでございます。

東部まちづくり審議会で今回3月に第1回開催をさせていただきました、東部振興構想に係る基本方針の案について御議論いただきました。様々な御意見をいただいたと報告を受けております。

今回の審議会を開催するに当たりましては、この東部まちづくりの課題、大変重要ですがけれども、ゼロベースからこの審議会でいきなり議論を始めたということではなくて、御承知いただいていると思いますけれども、昨年度、私の下で戦略会議を立ち上げまして、ここに見える何人かの委員さんにも御参画をいただきましたが、まずもってどういう方向性で進めていくのか、この審議会に諮る前段のその基本的な考え方の整理を戦略会議でさせていただきました。

私も実は参画をしながら議論を複数回開催させていただいたり、あるいは東部市民センターに出かけて、パネルディスカッションをしながら市民の皆さんの御意見も頂戴したりもいたしました。

そういったことで、前回簡単に振返りをさせていただいたということですが、議事録等も公開しておりますので、ぜひこれまでの東部の議論を踏まえて、また皆さん方の御意見をさらに積み上げていただくというようなことを期待申し上げたいと思っております。

それで、私も実は戦略会議やパネルディスカッションを通じまして、当初は何とかこの東部の課題、解決しなきゃいけないというような、そんな思いでおりましたが、議論を皆さん方と積み重ねていくうちに、むしろ東部には非常にたくさんの魅力があつて、そしてインフラも整っていて、地域の隠された魅力もあり、まだまだ発信できていない部分もある。そういった中で生かし切れていない部分もある。そういう中で、これを行政のみならず市民や企業や多くの皆さん方と上手に活用していく中で、よりもっと何か後ろ向きに課題解決しなきゃいけないというイメージから、もっと前向きに明るいイメージで議論ができてきたと思っております。よりよい東部地域にしていけるのではないかと希望が非常にわいてきたというような、そんな議論について戦略会議を通じてさせていただいたと感じております。

あまり私、長く話すわけにはいきませんが、東部地域には皆さん御承知のとおり、多くの地域資源がございます。

市長として市内全域を見渡しておりますと、例えば、消防車も入れないような狭隘道路もなるべく解決したいというようなこともありますし、いろんな地域があります。整備は進めているものもまだまだ水がつかるところもあるし、いろんな課題があります。ただ、東部地域というのは、非常に、もちろん篠岡地域は広いわけですが、特に桃花台について言えば、非常にインフラは整っておって、自動車道や歩道まで整備されています。小・中学生も車に遭遇せずに安全に通学できる、こういった環境というのは、非常に小牧の中でも、あるいは全国的にも見ても非常に優れた環境でありますし、それから多くの方が小牧に外から訪れていただきます。そういった外から訪れるような施設というのも東部に実は集中をしております。市民四季の森や温水プールや、ワイナリーもできました。そして、今、農業公園も私が就任する前の前の市長の時代からの議論であります。今計画を進めてきています。そして、民間では、今、ハイウェイオアシスの構想も商工会議所を中心に進められているようなこともございます。それ以外も本当に豊かな自然環境とニュータウンの調和という中で、非常に魅力のある地域だと思っております。

そうした中で、ニュータウンの宿命であります一時に多くの方々が入居をされて、そして子育てを終え、子供たちはどうしても外に出ていきます。やはり若者が都会に憧れるというのは古今東西

一緒にありまして、都会に出ていく若者も多くいるわけではありますが、新たな住民を外から呼び込んでいくということが一つの大きなポイントであるということは言うまでもないと思っております。そういう中で、いかに新たな住民を呼び込んで、活力を維持していく、人口減少や少子高齢化に対応していく、こういったことが一つの大きな課題だと思っております。

少し長く話をしてしまいましたが、そういった土台の上で議論をさせていただいて、市としては皆さん方と共にそういった議論を進めていきたいと思っております、今、この会議をさせていただいているわけであります。

そして、振興構想であります、基本方針（案）を前回お示しいたしましたが、今回、議事の(4)でまちの将来像とヴィジョン及び取組方針の素案ということで提示をさせていただくことといたしました。

これももちろん私や事務局が独自につくったものでなくて、戦略会議の議論を通じてまとめさせていただいたものを提示させていただきます。

戦略会議でもパネルディスカッションでも申し上げましたが、こうした東部のまちづくりが成功していくか否かというのは、やはり東部地域の明るい将来のヴィジョンが行政のみならず地域の多くの皆様方、関係の皆様方、市民の皆様方に共有できるかと、そしてみんなで同じ方向に向かって取組を共に進めることができるかということにかかっているんじゃないかというようなことを強く感じております。そうした中で、皆さんの住民参加の中で議論を練り上げていきたいということを思っております。皆さんの協力の中で関係性を密にしながら、東部地域一体のまちづくりを目指していきたいと思っております。

そんな中で、この東部の地域のまちづくりに多くの皆様方に参加いただけるような仕組みづくりとして、やはり議論を、絵に描いた餅で我々が議論してつくってこれで終わりということではなく、やはりそれを実行していかないといけないわけであります。やはり実施主体を、行政じゃあこれをつくったから、このとおり行政がやってよということでは、なかなか、これはできないわけあります。行政と地元の皆様方、企業や様々な皆様方が自分事として参画をいただいて、一緒になって取り組んでいくという、そういった組織化が必要ではないかと考えております。その仕掛けづくりというものも大事であると思っております、ぜひそんな皆さんに集まって話し合ってくださいかけづくりとしても、7月17日土曜日から東部地域のこれからを考えるということで、東部まちづくりワークショップも開催をさせていただきます。

今後、東部のまちづくりの議論は、今皆さんに、本日お集まりをいただいております東部まちづくり審議会と併せて、ここで東部の振興構想、そしてその柱だとか理論的な部分など整理をさせていただくわけではありますが、併せて具体的なアイデア、どのように実行していくか、こういった具体的な実施・実行の部分も議論していかないといけないと思っております。その辺りをぜひともこのワークショップで、住民参加の下で議論をしていただきたいと思いますと思っております。

このワークショップとこの審議会の両輪の中で、計画的な部分と、そして実施に当たっての様々な具体的な方策、相互に、有機的に、行ったり来たり議論しながら上手な形で実効性のある計画が皆さんと共につくれたらいいなというようなことを今考えさせていただいているところでございます。その辺りの進め方も含めて、皆さんからも御意見をいただきながら進めたいと思っております、そんなことを今市としては考えております。

本当に長くなって申し訳ないんですが、そんなことを私のほうも含めてお伝えをしたいと思っております、本日冒頭お時間をいただいております出席をさせていただきました。ぜひよろしくお願い申し上げます。

いと思います。

本日の議題の中にまちの将来像とビジョン及び取組方針の素案ということで、またお示しさせていただいていますので、十分、皆様に御意見をいただきたいと思っております。以上でございます。

硬くならず、自由闊達な意見交換を、議論を期待しておりますので、ひとつよろしく願いいたします。ありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございました。

市長につきましては、しばらく当会議を傍聴した後、公務のため途中で退席させていただきますので、あらかじめ御承知おきください。

ここで御報告申し上げます。

本日の出席委員数は18名でございます。したがって、小牧市東部まちづくり審議会条例第6条第2項の規定により、本会議は成立いたしております。

それでは、以後につきましては、小牧市東部まちづくり審議会条例第5条第2項に基づき、会長が会議を総理することとなっておりますので、増田会長にお願いしたいと思います。

会長、よろしく願いいたします。

【会 長】 それでは、私のほうで進行を務めさせていただきたいと思っております。

前回の意見の中にも、極力自由に意見交換ができる雰囲気づくりとか場づくりをいう御意向も出ておりましたので、このつ立があるとちょっと区切られた感じがしますがけれども、極力多様な意見交換ができればと思います。御協力のほど、よろしく願いしたいと思います。市長さんのほうからの熱い思いを聞かせていただきましたので、心強い形で進めていけるのではないかと思います。

それでは、今日の議事ですけれども、お手元でございますように、前回の振返りを含め、その他を含めて5つございます。

少し時間が空いたものですから、まず第1回目の審議会の振返りをして、少し思い出していただいて、議論のまず素地をつくりたいと思っておりますので、議事1. 前回の振返りについて御報告いただければと思います。よろしく願いします。

【事務局】 それでは、議事1について御説明させていただきます。

議事1. 第1回審議会の振返りについてでございます。

お手元の資料、資料2のほうをお願いいたします。

こちらは、令和3年3月23日に開催いたしました第1回の審議会における発言内容をまとめたものとなっております。

中でも、若い人たちが参入したくなるようなまちづくりが今後は必要であるという御意見ですとか、構想というものは実際のまちづくりの担い手の人たちの後押しとなるようなもので、行動指針になっていくようなものにしていきたいという御意見、また子供たちが自分たちのまちのことを考えることで、将来住みたいと思えるようなまちをつくれるのではないかなど、委員の皆様から様々な御発言をいただきました。

表の右側の欄につきましては、いただいた発言に対します対応方法として、事務局の考え方を記載させていただいております。

それからまた、前回の審議会におきまして、農業公園の御説明をさせていただきましたが、本日改めて追加の御説明をさせていただきますので、担当課より御説明をさせていただきます。

【会 長】 よろしくをお願いします。

ちょっと前回の補足説明ということで、よろしくをお願いします。

【事務局】 それでは、農政課からは前回少し触れていただきました小牧市農業公園について、振返りと少し補足をさせていただきたいと思います。

第1回の会議の中で概略を説明させていただき、委員の皆様方からは、市民のニーズの把握の必要に関する御意見ですとか、あとは管理手法に関する御意見、事業の推進に関する御意見など、様々な御意見をいただきました。

前回の折には、過去の経緯を省略した形で、すみません、説明をさせていただきましたので、本日は過去からの経緯について、いま一度補足させていただきたいと思います。

資料3をちょっと御覧いただきたいと思いますが、3種類のペーパーを用意させていただいております。

それで、初めにA3横長の（仮称）農業公園の経緯について、着色してある表を御覧いただきたいと思います。

A3横長の表になりますが、過去から現在に至るまでの年表ということになります。

農業公園は、平成元年に最初の基本構想を策定し、平成2年から用地買収を開始いたしました。その後、平成10年には基本計画の見直しを行い、その後さらに平成19年に基本構想を新たに策定、平成22年には基本設計を行っております。

しかし、平成25年3月には建設費に多額の費用を要することや、集客が見込めないこと等の理由で事業凍結を表明してきたところでございます。

ちなみに、今御覧いただいております表の一番左の欄に丸をつけた数字がございしますが、この今③に関しましては、現山下市長の時代を示しております。②は前市長、①は前々市長という期間の事柄になりますので、御案内をさせていただきます。

朱書きの部分に戻りますが、朱書きの部分をちょっと御覧いただきたいんですが、事業凍結後、平成27年には全体計画を約11ヘクタールから約6ヘクタールに縮小をいたしました。

その後になりますが、表の下、欄外にございしますが、欄外に記載の構成員による（仮称）小牧市農業公園検討委員会で8回の会議を経て、基本構想の修正を平成30年6月にしてきたところでございます。

なお、その基本構想の概要版を今説明させていただきました資料の一番後ろになりますが、添付させていただいております。後ほど御覧をいただければと思います。

少し長くなりましたが、農業公園に関する振返りと補足ということで説明とさせていただきます。以上で説明とさせていただきます。

【会 長】 どうもありがとうございました。

市長、何か御発言が。

【市 長】 ちょっと私のほうからこれについて補足をさせていただきます。

今、農業公園について御説明させていただきましたが、そもそも農業公園の是非等について、この審議会に答申をしているものではなく、これは既に計画をして進めているものでありまして、東部まちづくりを考える上で、今、先ほど私の挨拶の中で申し上げました様々な魅力ある施設が東部に点在しておりますが、今後の予定されている、計画されているものの一つとして、この審議会にも報告をさせていただくという趣旨で前回少し触れさせていただいたというものでございます。

今、2枚目のところで御説明申し上げましたように、前々市長の時代から、平成元年からずっと議論がありまして、私もこれについては非常にお金がかかる中で課題だということで、10年前の初めて市長に立候補させていただいたときには凍結を訴えて当選させていただいた経緯がありまして、事業費、そのA3の横長のペーパーの右から3つ目の概要欄に概算工事費が書いてありますけれども、ぐっと抑えて39億から今5億円まで規模の縮小をし、計画を見直して実は進めてきているという経緯がございます。

これにつきましては、私、10年前に就任以来、農業公園の今御説明しましたように検討委員会を8回別途こういった会議、審議会をつくって検討してきて、既にもう構想まで策定をして、今、基本設計を進めている状況でありますので、これについては完成をするものであるという前提で東部まちづくりの、これをいかに活用するかという議論はぜひしていただきたいんですが、そういった前提で、要するにできる施設だという前提で議論をいただければありがたいと思っております。

これは様々な御意見がもちろん市民の中にあるかと思いますが、こういった経緯の中で既に今設計を進めておるところでありまして、議会等では当然着工するに当たっては議会のまた御審議もあるわけでありまして、この審議会においては、特に農業公園の是非等については御審議をいただくものではございませんので、その点、御理解をいただきたいというふうに思っております。

ぜひ様々な施設でございますが、有効活用しながらぜひ東部まちづくりを進めていきたいというふうに思っておりますので、そういう意味で前向きな御意見をいただければ幸いです。

すみません、少し補足させていただきました。

【会長】 どうもありがとうございました。

多分、今御発言いただいたように、これはある資源として、これをどう生かしていくかというのは、どこか東部まちづくりの審議会の中でも生かし方について意見交換できる場面が取ればと思っておりますので、今日はむしろ前回の補足というところでとどめておきたいと思っております。適切な時期に、東部まちづくりにこれをどう生かしていくかという意見交換ができる機会を持てればと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

市長、どうぞ。

【市長】 特に取り上げていただきたいということではなく、会長がおっしゃるとおりなんですが、四季の森やら温水プールやワイナリーや様々な施設と同様にその生かし方等については御意見いただくことはぜひお願ひしたいと思っておりますが、これについて特にこの場で御審議をいただくということで御説明をしているものではないということで御了解いただきたいというふうに思って、そういう趣旨でございます。よろしくお願ひします。

【会長】 よろしいでしょうか。

それでは、一応少し間が空きました。前回どんな議論がされたかということをお一定共通理解

ができたと思いますので、本日の議題に入っていきたいと思います。

(2)が今後の進め方、(3)が策定に係る基本方針(案)について、これはお互いに関連しておりますので、(2)(3)を御報告いただいてから一度議論を進めたいと思います。その後、またまちの将来像とビジョン及び取組方針の素案について御説明いただいて意見交換をしたいと。

こんな段取りで今日進めたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、事務局のほうから(2)(3)について、一括して御説明いただけるでしょうか。よろしくお願ひいたします。

【事務局】 それでは、議事2につきまして御説明させていただきます。

議事2. 今後の進め方についてでございます。

お手元の資料、資料4のほうを御覧ください。

こちらが東部振興構想の策定に向けた今年度のスケジュールとなっております。

左側になりますが、上から、東部まちづくり審議会、ワークショップ、まちづくりミーティング、パブリックコメントと4つの項目に分けております。

これらにつきまして、順に説明をさせていただきます。

初めに、東部まちづくり審議会についてでございます。

令和4年3月までに合計6回の審議会の開催を予定しております。

各審議会の議事につきましては記載のとおりでございますが、第3回ではまちの将来像とビジョンそれぞれの案を、第4回では取組の方向の案を、第5回では東部振興構想の案を固めて、第6回で東部振興構想の策定を目指してまいりたいと考えております。

続きまして、2段目のワークショップについてでございます。

委員の皆様には、資料と併せてチラシをお送りしておりますが、小牧勤労センターの多目的ホールにおきまして、3回開催する予定としております。なお、6月15日号の広報にて募集案内を掲載し、現在のところ26名の応募をいただいているところでございます。

スケジュールにあるとおり、本審議会とワークショップを交互に行うこととしております。それを本審議会での審議内容をワークショップに反映し、方向性を共有しながら進めてまいりたいという理由からこのようなスケジュールとなっております。

行く行くはこのワークショップで出たアイデアの幾つかを実現するため、意見交換の場でありませうワークショップから実際に活動を行うプラットフォームへ移行させ、トライアルの検討や実施に向けた活動を行うこととなります。

ワークショップやトライアルのイメージにつきましては、参考資料1にまとめておりますので、後ほど御覧いただければと思っております。

続きまして、まちづくりミーティングでございます。

こちらは、本審議会の増田会長によります講演会を通じて東部まちづくりに向けた情報発信や意識醸成を行います。

また、併せまして参加者の方より東部振興構想の素案への意見をいただくなど、意見聴取の場としていきたいと考えております。

それから最後に、最下段のパブリックコメントでございますが、こちらは第5回の本審議会の後、東部振興構想の案を1月から2月にかけてパブリックコメントにより広く皆様からの御意見を聞いてまいりたいと考えております。

議事2の今後の進め方については、以上でございます。

続きまして、議事3. 東部振興構想策定に係る基本方針（案）についてでございます。

恐れ入ります、お手元の資料、資料5を御覧いただきたいと思ひます。

前回お示ししたものと内容が変わった箇所について御説明をさせていただきます。

恐れ入りますが、2ページをお願いいたします。

2の構想の体系でございますが、前回の審議会におきまして、東部振興構想はどこまで含めたものなのか分かりにくいという御意見などをいただきました。

体系図を御覧いただきたいと思ひますが、東部振興構想では、まちの将来像、ヴィジョン、取組方針・取組の方向を明確にするものといたします。

また、構想策定と同時にアクションプランを策定してまいります。

このアクションプランとは、ワークショップで考え、深掘りしましたアイデアをより具体的に示したものであり、策定することによりその取組を明確にするものでございます。

なお、このアクションプランにつきましては、12月頃に開催予定をしております第5回の本審議会にて議題として詳細を御提示する予定としております。

御審議いただいた後、プラットフォームにおいてトライアルの実施に向け検討を重ね、実際に行い、その結果について検証していくものでございます。

議事3. 東部振興構想に係る基本方針（案）につきましては、以上でございます。よろしく御願ひいたします。

【会 長】 どうもありがとうございました。

ただいま2番目と3番目、今後の進め方というのと、前回議論いたしましたけれども、基本方針（案）について修正箇所を御説明いただきましたけれども、これについて何か御質問なり御意見ございますでしょうか。

いかがでしょうか。

特に資料4のところ、市長さんの話にもありましたように、ワークショップとこの審議会との関係性、お互いにキャッチボールしながら要するに展開をしていくという。かつワークショップのほうはできたら今後活動の実施主体であるプラットフォームへつながっていきたいというのが、これはワークショップのほうの大きな成果というふうなことで御説明いただいておりますけど、何か資料4について、いかがでしょうか。

何か質問とか、もう少しこういうことが要るんじゃないとか、そんなことはありますでしょうか。

いかがでしょうか。

大体前回いただいた意見に基づいて少しやり方を詰めていただいていると思うんですけども、何か質問ありますか、いかがですか。

小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】 特にスケジュール的なものは問題ないと思ひます。

ただ、今日も予定は3時から5時までということになっておりますし、今も既に時間が経過してあります。そうすると話合いといつてもなかなか私どもの時間をいただけるということが少なくなるので、その辺の配慮をいただければ、それぞれざっくばらんに物を言ってくださいよという市長から

話がありましたので、私どもも前向き、ざっくばらんに発言をする時間を、戦略会議のときも私、少ししゃべり過ぎて、結局ストップをかけられるような状況がありましたが、無駄なことは言わないつもりですが、時間をいただけるような御配慮がいただければありがたいというように思います。以上です。

【会 長】 ありがとうございます。

極力説明の時間を短くして、意見交換できる時間を多く取りましょうというふうな御意思でございます。そのような形で進められればと思います。

泰野委員、どうぞ。

【泰野委員】 ワークショップと審議会が繰り返しながらやっていく。その後に市民活動によるプラットフォームへの移行というふうにあります。必ずしも市民活動だけではないのかなと感じます。産学官連携や、もちろん企業がまちづくりに絡んでくるという場面も出てくる。また、官主導で住みやすさをつくっていくというようなルールづくりもありますので、このプラットフォームへの移行というのは分かるんですが、市民活動によるということではなくて、そんな多様な主体者が参加できるプラットフォームであろうと、そういうふうに感じました。

【会 長】 分かりました。

産官学民といいますか、産業界、それと行政、それと市民の方々とか市民の活動、それと大学等いろんな高等教育機関があれば、そういうところも参画してと。よくステークホルダー会議というような呼び方をするんですね。みんな何らかの意味で関係している人が一堂に会せばという、そんな形で進めていきたいということで、市長さん、どうぞ、御発言があるようです。

【市 長】 今、泰野委員からお話がありました。今、会長からも御説明いただきましたけれども、少し書き方が限定的過ぎたということをおもっています。

まさにここで意図しているものは、行政も含めて関係者のプラットフォーム、行政も市民も、先ほど申し上げましたように、市民団体も企業も、あらゆる関係者が共に会して、ここで一緒になって進めていくプラットフォームをつくっていくと。そのベースとして、ワークショップに参画をいただいた皆さん方が議論を深める中で、じゃあ自分事として、よし、やってやろうと、こういった気持ちになっていただける皆さん方にさらに集っていただきまして、裾野を広げてプラットフォーム化ができればという我々の期待でございまして、趣旨としては、今、泰野委員や会長がおっしゃったとおりであります。

書きぶりをすぐ事務局のほうで直させていただきたいと思います。

【会 長】 ありがとうございます。

皆さんよく御存じですけど、この頃まちづくりでプラットフォーム、プラットフォームといっぱい出てくるんですけど、私なりの解釈でいうと、駅のターミナルのプラットフォームなんです。

皆さん、思い浮かべていただいたらいいと思うんですが、そこで偶然に旧友や知人と会います。そうすると、そこで近況の報告をしたりして、自由な情報交換ができます。これが2輪車のうちの1輪車が情報交換の場ということなんです。

それだけではプラットフォームは駄目なんです。お互いに時間があると、ふらっと外へ出て、一杯飲みに行きましょうとか、ちょっとお茶しに行きましょうかというので自由に行動がそこで発生するという、行動の発生の起点というのがもう一輪なんです。

だからプラットフォームというのは、自由な情報交換ができるというのと同時に、そこで何らかの次の行動の一步が踏み出せるみたいな、そんな場所なり空間を共有したいというのがこのプラットフォーム、私なりに思っているのはそんなことで、駅での行動を考えてみたら分かるかなと思います。

他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

ぜひともそういう関係する方々、これは市内の方だけではなくて、外からの応援者も含めて一堂に会せるような、そういうプラットフォームができればということです。

今日、リモートで参加いただいている和田委員、あるいは横山委員、そのあたり何かございますか。

深堀委員、どうぞ。

【深堀委員】 すみません、ちょっとあれなんで、ワークショップなんですけれども、これは公募という形で一応幅広いところから人を集めることになっているんですけれども、50名と絞っているんですけれども、実際に今の手を挙げてきた人というのは、年齢層で幅広く挙げてきているんですかね。

私、多分これは地域住民でも高齢者というかそういう人が出てきちゃって、若いアイデアがあまり出てこないんじゃないか。ある程度どこかに参加を何人か出させてくれというような、そういう集め方もあるのではないかなと、ちょっと私は思ったんですけれども。

【会 長】 分かりました。

いかがですか、今26人手が挙がっているという話ですけど、どんな状況でしょうか。

【事務局】 今、ちょうど26人ということで、今手持ち資料がなく内訳は細かく分かりませんが、企業ですとか、あと今言われました中部大学の学生の方ですとか、若い方から高齢者のお地元の方まで含めていろいろな世代の方が今応募いただいているという状況でございます。以上です。

【会 長】 たしか大塚先生のところの学生さんも何か御参加いただけるようなことを聞いているんですけど、いかがですか。

【大塚委員】 私も学生にPRはしましたが、なかなか興味をもってくれる学生が少なく、若干1名から申し込みましたという報告を受けたところです。残念ながらそんなに大勢で押しかけてという状況には至ってはいません。

締め切りはいつでしたか。

【事務局】 7月9日までとしております。

【大塚委員】 週末ですね、来週1週間。

【会 長】 今御指摘いただいたように、極力幅広い年齢層に集まっていただいて、いろんな豊富なアイデアが提供されるような形ができればということでございますので、少し広報なんかも頑張っていたらなあと思います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかいかがでしょうか。

【原委員】 原です。

前回から引き続いて私自身の中でちょっと迷ひがあるんですけども、本会は構想の策定ですから、当然文章にしたときには、この趣旨もそうですけれども、かなり大まかな、大枠の話になる。これはやむを得ないと思ひますけれども、実際にこの審議会においても、あるいはほかのワークショップにおいても、話を深めるために大枠の話のその下、中枠ぐらひの具体的なテーマというか、目指す分野というのを特定しないと、なかなか話というのは深まらないんじゃないかという気がします。

例えば、じゃあ何をやるかというのと、東部地域における交通のありようだとか、あるいは道路のありようだとか、そういう東部全域にわたるような基本的なベースの問題をテーマとして掲げて、それについて審議会はどう思ひ、どう考える。あるいはワークショップでまちの人たちはどう思ひというふうに具体的に話を詰めないで、また結果的に答えは抽象論で終わっちゃうような気がするんですが、その辺、皆さんはどうお考えでしょうか。

【会 長】 その辺は多分今日の次の議題のところ、資料6に基づいてお話をするとき、具体的には多様な世代が暮らし続けられる環境の整備ということで、具体的にどういう環境整備をしていったらいいとか、あるいはよく若者が回帰をしようとする、そこで働く場が必要になってきますが、多様な職業が共存し、依存できる環境をどう整備していったらいいとか、あるいはここに訪問をいただくとか、中での移動環境という話については、次の6番で具体的に掲げておりますので、少し踏み込んで具体的な話がそこでできようかと思ひているんですけど、よろしいですかね、そういうことで。

御指摘のとおりで、あまり空中戦ばかりで目標のところばかりやっているのではなくて、具体的な整備へどうつながっていくかとかいう話は資料6のところ、議論をきっちりさせてもらおうかなあと思ひますけど、そんなことでよろしいでしょうかね。

【原委員】 はい。

【会 長】 ありがとうございます。

【古池委員】 すみません、ちょっと今の話にも関係するんですけども、資料の5の基本方針と書いてあるんですけども、最初のページに現状とか課題とか必要性のようなものは書いてあるんですけど、いわゆる基本方針という、何か全体の考え方、いわゆる方針というのがどこかに出てくるのが普通のような気がするんですけど、これは資料6のほうにはそれらしきことは書いてあるんですが、この基本方針というのほどを見ればよろしいでしょうかね。

【会 長】 いかがでしょうかね。

どちらかという、この資料5のほうはこの計画の位置づけとか進め方ということが書かれていて、通常よくここに将来像とかヴィジョンとか出てくるんですけど、それは資料6のところに出てくるというふうな、そんな構成になっているのかと思うんですけど、それでは足らなくて、むしろこの基本方針の辺りに出てきたほうが良いというお考えでしょうかね、いかがでしょうか。

【古池委員】 基本方針（案）と書いてある資料であれば、どこかに基本方針が出てこないとおかしいのではないかと。最も肝心だと思われる基本方針が抜けていると思いますが、いかがでしょうか。

【会 長】 これは多分まちづくりの基本方針ではなくて、どういう方向で策定していきますかという、策定の仕方に対しての基本方針が書かれているんですね、この資料も。

市長、いかがでしょうか。

【市 長】 ちょっと私どもの説明が悪くて、十分伝わっていなかったんじゃないかというふうに反省いたしますが、これは前回この審議会の第1回の開催に当たって、私が諮問をさせていただきました。

これは一応案とは書いてありますが、異論がもしあればということで案と書いてありますが、基本的にこれはこの審議会で進めていただく、こういう形で進めてくださいというふうに私のほうから審議会に提出をさせていただいたものでございます。

前回までに戦略会議の中で議論をさせていただいて、この戦略会議の目標がこの基本方針の策定でございました。戦略会議を経てこの基本方針を策定させていただきましたものを私がこの審議会に最初に提出をさせていただきまして、この基本方針に基づいて審議会で御議論いただきたいと、こういう趣旨の基本方針でございまして、基本的に案と書いてございますが、このように審議会で議論をしていただきたいという、そういう趣旨で提出させていただいたものでありますので、あまりここの中のことを御議論いただくようなところではないのかなと思っています。ちょっと説明不足だったかもしれません。申し訳ありません、よろしく申し上げます。

【会 長】 古池委員、いかがでしょうか。

あと取りまとめのときには目次構成の辺りでもう少し分かりやすく組み込む必要があるかもしれませんが、よろしいですかね。

具体的なやはり目標等とかいうのは、先ほど原委員からもありましたように、この今日の資料6で具体的な意見交換ができたと思うんですけど、いかがでしょうか。

【古池委員】 はい、大丈夫です。

【会 長】 分かりました。すみません、よろしいでしょうか。

そしたら、ここでちょっととどまっていると時間の関係もありますので、具体的な意見交換ができる資料6、ここに進めさせてよろしいですかね。

それでは、次第の4番、今日はここの意見交換、少し時間をたっぷり取りたいと思います。

まちの将来像ヴィジョン及び取組方針の素案についてということで御説明いただければと思い

ます。よろしく申し上げます。

【事務局】 それでは、議事（４）まちの将来像とヴィジョン及び取組方針の素案についてでございます。

恐れ入りますが、お手元の資料の資料６及び参考資料２を御覧いただきたいと思っております。

こちらは冒頭の市長の挨拶にもありましたが、こちらは令和元年度より令和２年度にかけまして、東部まちづくり戦略会議を開催させていただき、そこでの議論などを考慮し、まとめたものでございます。

資料６の１ページのほうを御覧いただきたいと思っております。

まちづくりの５原則でございます。

こちらの考えといたしましては、東部地域のまちづくりを進める上で根底となるものでございます。

この５原則を意識して、まちの将来像、基本理念ですとかヴィジョン、取組方針や取組の方向を定め、まちづくりを行っていくこととなります。

恐れ入ります、２ページのほうをお願いいたします。

ここからはまちの将来像、ヴィジョンとして、ヴィジョンにひもづく取組方針それぞれの素案を記載しております。

これらは東部振興構想の骨格となるものでございます。

恐れ入りますが、参考資料２を御覧いただきたいと思っております。

こちらが東部振興構想の全体の体系図となっております。

左側から順に、まちの将来像、ヴィジョン、取組方針、取組の方向、また全体の下支えとしての基盤でございます。

これらの５項目で東部振興構想を構成してまいりたいと思っております。

本日は、一番右側の取組の方向を除きまして、まちの将来像、ヴィジョン、取組方針、そして基盤について議論をいただきたいと考えております。

また、取組の方向につきましては、第３回、第４回の本審議会で御議論していただきたいと考えておりますので、現在は空欄となっております。

恐れ入りますが、また再度資料６のほうを御覧いただきたいと思っております。

まちの将来像、ヴィジョン、取組方針、そして基盤について、東部まちづくり戦略会議での議論や前回の審議会におきます委員の皆様からの御意見を踏まえまして、事務局側で作成いたしました素案について御説明させていただきます。

２ページであります、まちの将来像であります。

今後、この東部地域全体が持続的に発展し続けるまちとしていくには、東部地域が一体となり、地域住民、企業、行政、その他関係者が連携・協力し、夢と希望を持って新たなまちづくりへチャレンジしていくことが重要であります。

そのことから、まちの将来像、基本理念を「人がつながり、支え合い、地域が一体となってチャレンジし続けるまち」とするものであります。

続きまして、ヴィジョン１．多様な世代が暮らし続けられる環境の整備についてであります。

東部地域におきましては、高齢化の進行が著しく、また子育て世代が転出超過となっている現状から、今後はバランスの取れた人口構成の転換を図りながら持続的に発展し続けるまちとしていく

ことが不可欠だという考え方にに基づきまして、定住者を意識したヴィジョンとしております。

このヴィジョンには、高齢者が安心して暮らせる環境の整備、子育て世代にとって魅力ある環境の整備、子供が地元愛を育める環境の整備、以上3つの取組方針をひもづけております。

続きまして、ヴィジョン2. 多様な職業が共存し、持続できる環境の整備でございます。

東部地域には、のどかな田園風景を保全してきた農業や地域の暮らしを支えてきた商工業というなりわいがあるほか、閑静な住宅という面も持ち合わせています。ところが、少子高齢化の進行による後継者不足や住民の減少などによって地域を持続・発展させていくものが減退しています。

そのため、既存集落と桃花台ニュータウンとの交流を一層深めること、外部から新しい関係者が進出しやすくすること、女性、高齢者、障害者、外国人といった多様な人材が活躍できる環境を整備することなどの取組が必要という考え方にに基づき、就業者を意識したヴィジョンとしております。

このヴィジョンには、地域のなりわいが持続・活性化する環境整備、新たな地域ビジネスの創出、エリア外からの投資等を呼び込む環境整備です。以上3つの取組方針をひもづけております。

続きまして、ヴィジョン3. 訪れたいくなる、住みたいくなる魅力の創造であります。

若い世代や子育て世代の転入促進を図るには、この東部地域を知ってもらい、訪れてもらい、住んでみたいと思ってもらう必要があります。

特産品や豊富な自然、市民四季の森や温水プールなど、東部地域にある地域資源の活用を促進するとともに、隠れた地域資源を発掘することで、この東部地域の魅力を高め、発信していく必要があるということの考えに基づきまして、来訪者や未来の定住者を意識したヴィジョンとしております。

このヴィジョンには、地域資源の魅力の向上及び発信の強化、アットホームな雰囲気のあるまちの創出、以上2つの取組方針をひもづけております。

続きまして、1枚めくって最後のページですが、まちの将来像やヴィジョンの下支えとなる基盤、まちを育む体制の構築であります。

3つのまちづくりのヴィジョンを実現し、持続的に発展し続けるまちとするには、これまで以上に住民主体のまちづくりを推進していくことが必要です。さらに住民によるまちづくりの取組が将来的には自立し、持続性を持ったものとしていくことが重要なポイントの一つと考えております。

そのため、この基盤には、人と人がつながる仕組みの構築、地域住民などの自立した活動を促進する仕組みの構築の以上2つの取組方針をひもづけております。

説明については以上でございます。よろしくお願いたします。

【会 長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

ここが今日は意見交換の中心になる議論かと思えますけれども。

どこからでも結構です。

【落合委員】 取組方針の中の1になりますけれども、高齢者が安心して暮らせると、安心して暮らせることは当然だと思いますが、安心して死んでいける世の中をつくるということは、本当に今、白骨死体で発見されることもありますので、とにかく少なくともその地区に住んでおれば誰が葬式をやってくれるとか、そういう最低限、とにかく子供は外へ出ちゃって連絡もつかないとか、うちにも寄りつかないとか、そういうようなことで、本当にちょっと前は葬式だけはかなり大げさにや

って人が来てというのが、今は家族葬よりもっと密葬みたいな形でやられるのというのも結構ありますし、そういったこの中を見ると、暮らしていきやすいとかというもの、今、これだけ高齢化してくると、介護を放棄されて介護難民があふれ出るような状況になってきているわけで、安心できる体制を何かつくるとか、この言葉で書いておくと何かいいんじゃないかなということを思います。以上です。

【会長】 ありがとうございます。

やっぱりある意味、自治会そのものの持続性みたいな話もありますし、終の住みかとして一体今あるコミュニティー、大体面倒を見てくれる次の世代がなかなか見つからないというのが現状かと思しますので、その辺りの話ですね。

ほかいかがでしょうか。

この辺りは具体的に安心して暮らせるというのは、今言いましたように、コミュニティーみたいなやつをどう持続させるかというふうな話と、もう一つは買物難民やとか移動性の確保、だんだん免許を返納していったときに移動性の確保みたいなことに対してどう考えておいたらいいかみたいなやつもこの項目の中に入るかと思うんですけど、その辺なんかも重要な視点かと思えます。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうかね。

若い世代に入ってきてほしいというのと同時に、今住まわれている高齢者の方々が安心して暮らせるとか、終の住みかとして暮らせるというのも非常に重要なことですので、ぜひその辺りを書き込めたらなと思います。

ほかいかがでしょうか。

小柳委員、どうぞ。

【小柳委員】 方針として書く場合はこういう文章しかないかなあと思っています。

僕は桃花台に住まわせていただいてもう40年たっていますので、私どもと一緒に高齢化率が非常に進行しています。65歳以上の比率が55.7%というようなこういう地域に住んでいますので、今おっしゃったように、高齢者に対する手当てとか、気の配りというのは極めて大事だというふうに思っています。

これだけの基本方針と具体的なものは、私として何ができるかということを考えたときに、今この東部地区を充実させていくにはどうするかということになると、まず1つは若年層をどうやって引き入れていくかという、魅力ある地域、特に桃花台の関係でいいますと、戸建てもありますし、県営住宅もありますし、公団の住宅もありますし、それからURの住宅もあります。これはそれぞれ今どういう状況になっているかを実際に、今日はまだ細かいことは言いませんが、把握をしていく必要があると思います。桃花台は、県営住宅が非常に多いのですが、空き部屋が多く感じます。

ですから、この問題は、今日も県の方がオブザーバーで出ていただいていますけれども、県の事業主体で造っていただいて、私どもは住まわせていただきました。現在の県営住宅の空き家対策について、例えばもう少し突っ込んで若い者が今日的な間取りを造るような、そういったものを、そういう機関に積極的に取り組んでいただければ、若い者が集まってくる状況づくりにもなるのではないかと考えてます。

それからもう一つは、私は今、若い人たちに、これまでの桃花台、生まれ育ってきた状態、まち

づくりをしてきた状態というのを、例えば中学生ぐらいでは、もう既に私みたいなおじいさんかおばあさんの時代で作り上げてきたまちづくり、それからお父さん、お母さんの時代のまちづくり、そしてそこに生まれてきた子供たち、こういう世代間の交流というのをやる場合は、今までの作り上げてきた歴史というものを話しながら、子供たちに、このまちを次の世代で守ってくれるかというような交流をする必要があるかなと思っています。

それからもう一つは、人口が減りました。減りましたけれども、外国の方が非常に多いです。外国籍の子供たちも非常に私どもの校区では多いです。こういう人たちとどういような共生をしていくかということに取り組む必要があると思っています。

こういうことが、例えば、私が僅かな人生の中で、あと残された人生の中でどういう取組をするかということになると、今までの歴史を子供たちに話しながら、さらに君たちの世代に引き継いでいけよというような思いを伝えたいような気がします。

それから、非常に多文化共生が重要な時期に入ってきたと思っています。そんなことを思っています。

それからもう一つは、地域とのつながりですね。桃花台だけではなくて、地域とのつながりについては、幸いにして小学校単位で5つの地域協議会というのがあります。したがって、地域協議会の情報交換、あるいは協力会というのをより強くしていくということが極めて重要だなというように思っています。

いろいろ申し上げたいけど、長くなりますので以上です。

【会長】 分かりました。

今、世代交流の視点で、あるいは外国人の居住者も含めた多世代共生の在り方、あとそれともう一つは、子育て世代にとって魅力ある環境の整備という中に住宅政策的なものを、少し若い世代に合わなくなった賃貸住宅の改良など、その辺りのことの住宅施策的なことをここに書き込むのか、あるいはビジョン3の住みたくなる魅力という辺りに書くのか、その辺りを少し考えていかないとという御指摘。

あるいは、子育ての人にとっての魅力あるというのは、1つは子育て支援の仕組みや、もう一つは教育の在り方みたいな仕組みも非常に大きなメリット、ここで例えば新たな教育の特色ある教育みたいなやつを売りにするというようなことも考えられようかと思しますので、子育て世代にとって魅力ある環境、この辺りについて、今御指摘いただいたようなことをどう取組の方向の中に書き込んでいくかということかと思しますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかいかがでしょうか。

村上委員、どうぞ。

【村上委員】 将来像、ビジョン、取組ってすばらしい提案で、いいと思いますが、将来的に全て到達させようと思うと、かなり荷が重い目標だと思うんですけどね。もうちょっと実現可能な目標に絞って、例えば3項目とか、そういう項目を減らして取組んだほうがいいような気がするんですけどね。

確かに全て全部できれば最高のまちができるんだろうと思うんですけど、特に最後の「まちを育む体制の構築」なんて、一番実現が程遠いような目標を掲げられていて、どれだけ達成できるのか、私は多分できないと最初から思っけてしまいます。もう少し的を絞って達成可能な目標に限定したら

どうでしょうかという意見です。

【会 長】 なるほど、分かりました。ありがとうございます。

少しこの辺りも具体的な取組の方向の中で、進捗管理ができるような具体的な数値目標、この頃よくKPIみたいな言い方をしますけど、そういう数値目標が掲げられるようなことも、事務局のほうはいかがなんでしょう。ここで考えられているのは、進行管理できるような目標指標みたいなやつも設定までお考えなんでしょうかね。その辺は事務局、いかがでしょう。

【事務局】 今後、ワークショップとかを行いまして、アクションプランのほうを策定してまいりたいと思いますので、そちらで実現可能なものからやっていくということでは考えております。

【会 長】 分かりました。一度、かなり手を広げてみて、その中からさらに実現性みたいなところで絞り込むということもあろうかと思っておりますので、今の段階はどちらかということ、たくさんアイデアをどんどん出していただくのがいいのかなと思っているんですけどね。ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

深堀委員、どうぞ。

【深堀委員】 一応今、御説明をいただいたんですけども、私の考え方なんですけれども、今現在、行政がやっているこのビジョンに沿ったものを具体的に上げて、その実態を広い世代に知っていただいて、それをシェイプアップするとか、そういう進め方のほうがもっと絞りやすくなってくるんじゃないか。そこに新しいものを付け加えていくと。そうでないと、範囲がすごい広いような感じで、普通の人に何かアイデアを出してよと漠然と言われても、何も出てこないと思うんですよ。現実、今、こういうビジョンの中に適用するもの、こういうものを市政としてやっていますというものを出して、それが何なくできているのか、それとも不備があるのか、そういう論議の仕方のほうがもっと具体性が出てくるんじゃないかなと私は感じますね。

【会 長】 分かりました。

多分、次回取組の方向みたいところで、今されている施策体系と今回加えていくようなものとか改編するようなもの、その辺りも見えるような努力をしてみるとということかもしれませんね。ありがとうございます。

山下市長、いかがでしょうか。

【市 長】 すみません、貴重なお時間を申し訳ありません。

いろいろと今、この素案について御意見をいただいているところなんですけど、ちょっと伝わっているかどうかということもあって、繰り返しになりますけれども、今、私どもが「まちの将来像とビジョン及び取組方針の素案」ということで提出させていただいた資料6につきましては、戦略会議でこれまでいろんな議論を進めてまいりました。前回の第1回の会議で、「東部まちづくり戦略会議の基本的な考え方」という資料5というペーパーを皆様にお配りしているわけなんですけど、こういったものでありますけれども、こういったペーパーを戦略会議の一つの成果ということでお配りをさせていただいておりますけれども、これを基に事務局のほうで作成した市としての、皆様が

これから審議会で構想を練っていただくわけですが、そのたたき台として、素案として提出をさせていただいたものですから、まだ何ら決まったものではもちろんございません。

ただ、まちづくりの5原則につきましては、戦略会議において専門家の先生方と共に、いろんな御意見をいただいた中で、大体この5つの柱がまちづくりの5原則かなと。この辺りについては、かなりまとまっているものでございます。もし異論がなければ、こういったまちづくりの5原則の下で進めていくのがよろしいんじゃないかと私も考えております。

それ以降、2ページ以降のまちの将来像であるとか、あるいはヴィジョン1・2・3であるとか、この辺りにつきましては、今お示しをした戦略会議の基本的な考え方で、皆さん方から様々な課題や可能性の視点、取組の視点等をいただいた。これをかなり網羅的に構想風にまとめて素案としたものが、今日提出をさせていただいた素案でありますので、繰り返しになりますけど、何らまだ決まっているものではございません。今、広過ぎるんじゃないかとか、難しいんじゃないかとか、いろんなことの見解がありますけれども、今日お集まりの委員の皆様方に、たたき台がないとなかなか話が進まないんじゃないかと、そういうような御指摘もありましたので、取りあえず出させていただきました。これまでの戦略会議の議論を踏まえて、まとめたものということでございます。かなり幅広になっておりますが、いろんな視点でまたこれをもんで、構想にさせていただければと思っております。

なお、私、先ほどの挨拶で申し上げましたけど、戦略会議の中で、いろんな地域資源があるなあということと、新しい人たちをやっばり呼び込んでいかなきゃいけないなあというようなときに、地域住民が主体になって、そういった地域の魅力を発信していくということですけど、若い人たちって、例えばニュータウンが居住誘導の推進地域になっているわけですけども、既存の住宅ですから入りにくいというのも、そういう御意見もありまして、やっぱりウエルカムという雰囲気を出してくれるといいという御意見もいただいているもんですから、住民がぜひ桃花台、東部地域と一緒に来て住んでほしいというような、住民主体で地域の魅力だとか、ぜひ一緒に住もうよというようなこと、アットホームな雰囲気を発信してもらおうというような、そんなことも議論の中で、そういったこともいいよねと。既存の資源を活用して、例えば緑道とか歩道が非常に充実していますから、そういった公園だとか緑道だとか地域資源を活用して、そういったことで、住民主体でそういった発信をするような取組というのでもいいよねというような意見も議論の中でありました。

いろんな地に足のついた、皆さんと一緒に取り組んでいけるような、そんな取組というの、このワークショップもそうですけれども、今後の議論の中で考えていけるといいなというようなことを、私個人的にぜひその辺りを期待しております。いろんな意見をぜひ出していただきたいと思っております。

すみません、私、他の公務がございまして、これで失礼させていただかなきゃいけないもんですから、最後に少しだけ私の思いを申し上げます。

そんなことで、たたき台でございまして、ぜひこれにとらわれずに忌憚のない御意見を活発にいただければありがたいと思います。すみません、よろしく願いいたします。失礼いたしました。

【会 長】 ありがとうございます。少し公務で退席されるということでございます。

【市 長】 来週、同じようなテーマで、たしかあると思いますので、よろしく願いします。すみません、失礼します。

【会 長】 引き続き、いかがでしょうか。リモート参加の皆さん方も積極的に御発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

【古池委員】 よろしいでしょうか。

【会 長】 古池委員、どうぞ。

【古池委員】 私なりに東部地域に抱えている（勝手な）ヴィジョンは、以前にも申し上げましたとおりですが、その歴史を振り返った際、小牧市史に「日本の原風景」とまで言われた姿を取り戻すことです。この地域では、桃などの果樹栽培の生産に競争力があり、恐らくは今でも農的な人材がまだまだたくさんおられると思います。そういった人的資源を生かしながら、持続可能な集落、あるいは農業経営を実現する、そのようなヴィジョンを描いたらどうかと思っています。

そういう意味でいいますと、先に説明のあった農業公園ですが、一定のエリアを絞って、囲い込み、そこだけが賑わってその周りは寂れ果てるという、失敗例がたくさんあります。農業公園の中だけがにぎわうというだけではなくて、主人公はあくまで既存の農地、既存の集落であり、そこがいかに持続的に発展していくかということを考えるべきです。

例えば、就農にチャレンジしたいような方がいれば、そういった方をサポートしつつ、既存の農地や集落へ誘導し、空き屋や休耕地を活用するような例です。発想としては、既にある資源を生かしていくという考え方を取るとよろしいのではないかなと思っています。東部地区では、かつて既存集落からニュータウンという形で住宅地を囲い込み、次は、農地を囲い込んで、農業公園を整備するという、機能の囲い込みによって、結果、周りの集落や農地が寂れていくという事態が繰り返される訳で、農業においては、それは避けたいと思います。以上です。

【会 長】 ありがとうございます。

多分、取組の2-①のところを見てもらうと、「地域の生業が持続・活性化する環境整備」と書かれていまして、この中には1つは地域農業の活性化みたいなやつも必要でしょうし、桃花台の居住者の方々が、泉北ニュータウンの場合なんかも農村部が周りであって、そこにニュータウンに住まれている方々が援護農をすると。収穫のお手伝いとか、そういうお手伝いを支援するみたいな形の仕組みがあって、周辺の農村とニュータウンとの連携によって、生業を活性化させていくみたいな、そんな取組もあります。だから、そんな辺りは取組方針2-①のあたりで、うまく今御発言いただいたことが書き込めればと思います。

古池委員、そんな形よろしいでしょうか。

【古池委員】 そうですね。今、会長がおっしゃられたようなことも非常に有益だと思いますし、またチャレンジしたい就農希望者とか、いろんな方がおられると思いますので、そういった方に技術支援を、地元の人たちをうまく活用しながら、外から呼び込むということもあり得るかなと思います。いろいろあると思いますので、また御議論いただければと思います。

【会 長】 ありがとうございます。

ほかいかがでしょう。どんどん、今日は多分、間口を広げるほうが大事なかなと思いますので。

【和田委員】 会長よろしいでしょうか。和田です。

【会 長】 和田委員、どうぞ。

【和田委員】 ありがとうございます。

今までも話してきた5原則というのがあるって、いろいろヴィジョンというのが出てきて、基本的には網羅性というか網羅はしているかなと思います。誰をも取りこぼさないというSDGs的な、何かそういう表現にはなっているのかなというのはあるんで、いいなというのもあるんですけど、片や少しフワッとし過ぎている部分もあるので、これは何をやるかということでももちろん決めていくということもあると思うんですけども、僕が思うには、このヴィジョンとか取り組みたい方針というところに横串を刺すようなキーワードが欲しいなあと感じはしています。

今まで農業とかいうのが出てきていて、じゃあ農業というところで桃花台のエリアも、その周りも押していくみたい。これはちょっとPR的な要素になってくるかもしれないですけど、まちの人たちがそれを本当に望んで、そこに向かって対外的にPRしていく、もしくはそういう人たちを呼んでいく、これはダイバーシティで外国の方も全て踏まえて、農業というキーワードで例えば人を集めていくということも一つなのかなということもありますし、逆に、これはちょっと語弊があってあれかもしれないですけど、若者を取り込もうというようなことって、どのまちも全部みんな言っていて、逆にお年を召した方がみんな来たくなくなるようなまちづくりとかをしても面白いんじゃないかなと僕は勝手に思っています。

高齢者の方もお元気になられているので、そういう方が生き生き過ごせるみたいなまちになっても、これが医療というものがすごく発達していて回す、例えば医療機関がすごく発達しているというまちであれば、そういう逆張りで考えても面白いのかなと、これはアイデアを広げるということ。

何かそういう高齢者にすばらしい、御高齢の方にすばらしいまちであるということであるとか、例えば農業であれば、例えばダイバーシティで外国の方がたくさん来ていて、それがすごく共生されているという、そういうことを横串に入れて、このヴィジョンをつないでいくと分かりやすいのかなあと僕は感じていて、このままいっちゃうとばらつきがあって、結局フワッとして全部実行しにくいという、何かそういう、会社の経営理念とかヴィジョンとか、きれいに立てるんだけど、誰も全然それが入っていないみたいな、そういう状況になるんじゃないかなあと思うので、僕としてはそういうのができたらいいなというふうには思いました。以上です。

【横山委員】 会長、よろしいですか。

【会 長】 はい、どうぞ。

【横山委員】 滋賀大学の横山でございます。これから初参加でございます。

私から申し上げたいのは、今の和田さんにも通じますが、これからの作業になるかと思えますけれども、やっぱり役割分担です。公共私の役割分担です。プラットフォームをいろんな人のステークホルダーが集まるプラットフォームにしていくというお話でございますが、行政はそこで何をやるのか、市民はそこでやるのか、そして市民と行政が協働でやる部分は何なのか、このことの役割分担をきちんと明確にしていけないと、単なる寄せ集めの会議になってしまいます。今あえて、ハード整備とソフトと、まちづくりは2つあると思いますが、それを一緒に合わせて網羅的にこの5つの原則、ヴィジョンを立てられていると思いますが、逆にきちんとハード整備するところはハード、そしてソフトで整備するところは市民や、もちろん行政もそこに全く関与しないということではありませんが、そうしたそれぞれの役割とやるべきことというものを整理していけないと思っています。

あと、既に行われておられるかどうか分かりませんが、この地域に対して、今行われている既存の政策・施策の洗い出しということが私は必要かと思えます。既に行われていたら結構なんですけれども、多くの自治体は一つの地域に対して行政の縦割りによって、この地域にどういう施策が行われているのか、もう少し具体的に言うと、どういった補助金ですとか委託料ですとか、そういったものが流れているのか。このことの全く把握なしに進まれるということが結構あるんですね。

ですから、そういったものの今ある施策の洗い出しをして、そしてそれが本当に必要なのかどうか、そしてそこに漏れている分野はないのか、あるいは歴史的な使命を終えたものは廃止すべきではないのか、あるいは重複するようなものは統合していくべきではないのか、こういったスクラップ・アンド・ビルドが私は必要かと思えます。

【会長】 ありがとうございます。

御指摘いただいた1点目は、先ほど深堀委員からもございましたように、今の施策体系と今後提案していく施策体系とを照合してチェックする必要があるということが1点と、もう一つは、よくこういう計画をするときに、誰がという主体を書かずに計画書を書くので、極力誰がということ、市民がやるのか、協働でやるのか、行政がやるのかという、主体が分かるような書き方ができたらいいなあと思います。

もう一点は、この中に書かれているヴィジョン1・2・3、ここの中にはハード整備もソフト整備も両方入っているんです。その辺り、少しハードの整備としてどういうことが必要で、ソフトとしてどういうことが必要かというのも少し分けて書く必要があるかもしれないです。

ありがとうございます。そういうふうな整理でよろしいでしょうか。

他はいかがでしょう。どうでしょう。せっかくですので、まだ時間がありそうですけど、もうあと30分しかありませんので、何でも結構です。

秦野委員、どうぞ。

【秦野委員】 皆さんから意見が出ていると思うんですけども、非常にこのヴィジョン1・2・3、3までなんですけど、何となく今までの行政らしくなくて、割と横串を刺したようなヴィジョンなんですよね。今までのやり方というか縦軸というか分野別というんですかね。福祉でどうだ、環境でどうだ、人づくりでどうだというようなところがマトリックスのように縦軸と横軸に並んでくると、何となくうまく分かるような感じがします。

あと、さっきも話があったんですが、SDGsの鍵はここの中ですごく見えてくるなど、持続できる、また多様なという言葉を使ってあるので。せつかく小牧もSDGsの未来都市ということに選ばれていますので、そういったところを強く打ち出してもいいのかなという気がしました。

あと、ついでにということですが、私の中では教育というのが非常に大きなキーワードになってくるのではないのかなと思います。逆にこういったいろんな諸課題について、学生さんがちゃんとコミットできていくみたいな、そんなところが東部地域にあると、後ほど実は名古屋造形大学さんが出られるということもあって、あそこがこういうようなことに関係を学んでいくような場になると、多くの方がそこで学びながら、実際にその地域の中でいろんなことができていくみたいな、そんなのが理想なんだろうと思いました。以上です。

【会 長】 ありがとうございます。

多分、今あった高齢者の暮らしにとっても大事ですし、子育てにとってもやっぱり、教育は多分、学校教育と社会教育の両方とも大事になってきます。特に高齢者にとっては生涯学習、この頃、死ぬまで学ぶ場が提供されているとか、そういうことというのは非常に居住魅力の一つですし、その辺りをどういうふうにもこの中に書き込んでいくかと。

あともう一つは、どうなのでしょう、まとめるときに、この頃よくやるんですけど、SDGsの17のアイコンを一個一個の取組に貼り付けていくようなことは、事務局、お考えになっているのでしょうか。いかがでしょう。

【事務局】 SDGsにつきましては、そういった形で考えていきたいとは思っております。

【会 長】 それも小牧市にとっての一つの目標像ですので、大事な点かと思えます。ありがとうございます。

ほかいかがでしょう。どうでしょう。少なくとも1回は発言して帰っていただいたらいいんじゃないかなと思います。

中川委員、どうぞ。

【中川委員】 じゃあ1回だけ。中川でございます。

先ほどから御意見をお聞きしております、今から申し上げたいのはあくまでも個人的な見解、ひょっとしたら間違っているかも知りません。そういったことで、このビジョンの中のキーポイントは、私はビジョン2に全て隠されているような気がいたします。それはなぜか。何をするにしてもお金がかかります。その財源の基となります小牧市自身の財政力がどれだけ維持できるか、また今後どれだけパワーアップしていくかが全ての整理に関わってくるんじゃないかなという気がいたします。

よって、それを向上させるために、私はここで思っておりますのは、ビジョン2の中に隠されているということは、小牧市の中で今まで成功してきた事例は、やはり企業の誘致にあると思います。この企業誘致をすることによって、当然雇用も生まれるはずで、人口も増加されると思います。よって、この企業誘致を今後もっともっと小牧市として力を入れていっていただきたいという希望、さらには小牧市の中で企業を誘致できる場所、土地がどれだけどこにあるのかどうか。今、どうでしょう。山林といいますか、畑といいますか、田んぼといいますか、そういったところが休

耕をされたままのところもあるかも知れません。それをどういう改良がなされるかどうかは分かりませんが、企業誘致できる土地、場所を確保して、そして市が優良な企業を引っ張ってくる努力をしていく。この辺が全てにかかっているんじゃないかなという気がしますので、その辺の市としてのヴィジョンの中で、ぜひとも企業誘致というものを大アピールしていただければなあと思います。以上でございます。

【会 長】 分かりました。多分、方針2-②の辺りとか、2-③の辺りに大きく関係してくる御発言かと思えます。

特にこれから重要な話は、御指摘いただいたように、この頃よくプランをつくる時に、地域経営をどうするのかということや、都市経営というのをどう考えていくんですかという話が出てきますので、その辺りも、湯水のごとく税金を使えるというような社会情勢じゃありませんので、今いただいた御発言のように、いかに持続的に地域経済を回していけるのかみたいな視点からのチェックも非常に重要かと思えますので、ぜひとも考えていきたいなあと思います。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

原委員、どうぞ。少しお待ちください、村上委員。

【原委員】 今お話の件とちょっと絡んできますけれども、私、小柳さんと一緒に桃花台に40年ぐらい住んでいます。そこで感じますのは、今ここでやる問題というのは、小牧市東部地域の問題ですから、桃花台ニュータウン以外の従来から周辺の地域、当然これも同じ舞台で話をするわけです。けれども、40年間住んでみて現状はどうかというと、ニュータウンとニュータウンでない篠岡地区、いろんな点で差があります。ですから、その辺の現状の、ちょっと言葉は悪いかもしれないけれども、格差というのを踏まえつつ、あるいは前提としながら、いろんな施策をこれから打っていかなくちゃいけない。それが市政の僕は課題だと思います。

東部地域というのは、面積的には小牧市のほぼ半分近いんです。四十四、五%だと思います。一方、そこに住む人口は小牧の2割です。つまり、ほかの小牧の市街地に比べて、あるいは西部、南部と比べて、極端に人口とまちの広さというものがアンバランスなのです。それが今の篠岡地区というか東部地域のほかでは見られない特性なんです。

ですから、その辺をよくいろんなアイデアの中に織り込んでおかないと絵に描いた餅になってしまう。そんな気がします。その辺は注意していただきたいと思います。

【会 長】 ありがとうございます。

多分この審議会をするときも、東部まちづくりなのか、桃花台ニュータウンのまちづくりなのか、どっちなのかというような話も去年の戦略会議でそんな議論があって、桃花台に特化した話ではなくて、東部地域全体の議論をすべきだということで、今御指摘いただいたような形だと思います。

【原委員】 それを忘れてはいけないと思います。桃花台だけの問題じゃないです。

【会 長】 そうですね。ありがとうございます。

他いかがでしょうか。どうでしょうか。

少しお待ちください。田中委員が挙げたので、少し待ってもらえますか。その次に三木さんに行きますので。

田中委員、どうぞ。

【田中委員】 私ども社会福祉協議会のほうでも、今、福祉の面から、高齢化が進んでいるという中で、まちづくりという部分を非常に注目して関わり合いを持たせていただいています。そういった中で、今、地域協議会の方々が、本当に今、篠岡地区のほうでは頑張っておられて、いろんな問題に1つずつ取り組んでいられます。小牧市の中でも非常に進んでいる地域かなと思っています。

その中で1つ思うのが、産官学連携という形の中でありますけれども、企業がどのような形で、そういったまちづくりに絡んでいくのかというところは私たちも今、苦心しているところでありまして、一つの問題を捉えていくと、例えば移送の問題とか、移動販売の問題だとかということで、協力してもらおう企業があれば、その問題については非常に進んでいくということがあるんですけれども、せっかく工業団地が2つあって、そういったところをどういう形で取り込んでいくのか、巻き込んでいくのかというところ、その辺りのところを着目しながら考えていくという必要があるんじゃないかなと考えております。以上です。

【会 長】 分かりました。ありがとうございます。

前回も少しそういう話があって、農村との連携の在り方とか、各種開発事業との連携の在り方が割とイメージしやすいけど、工業団地との連携の在り方というのは、本当に具体的にここでどう考えて、どんなアイデアを出せるのかというのが大きな宿題ですので、その辺り、皆で知恵を出しながら、工業団地があるというのは大きな資源ですので、ぜひとも書き込めるように考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

あと三木委員、どうぞ。

【三木委員】 三木でございます。

私、市民団体である桃花台を考える会というのに参加させてもらってしまして、その中でも特に空き家対策のほうに取り組ませていただいています。

空き家対策を考える上でとても大事なのが、1つは空き家になってしまわないようにする努力なんです。認知症ですとかいろんな問題で、空き家になってしまう建物というのをいかに減らすかということ。それともう一つは、若い世代にどれだけ桃花台に住んでもらうかという、この2つが大きいポイントになります。

高齢者の方の取組については、簡単にはできないことなんですけど、先ほど和田さんが言ってみえた高齢者の人が住みやすいまちにすることというのは若い人にもいいんじゃないかみたいなお話があったと思うんですけれども、今の若い人は車2台を持ってない所得層の人とても多いので、免許を返納した高齢者の人が住みやすいまちというのは、若いちょっと所得の低い人にも住みやすいまちになるのではないかと思います。まずは桃花台の賃貸に住むという、若い人を呼び込むための一つのいいアイデアなんじゃないかなと思います。

じゃあ若い人が桃花台にどういう気持ちで住みたいと思うかという、ここが一番難しいところなんですけれども、わざわざ桃花台に若い人が住みたいと思うには、それなりの理由がないと来てくれないわけです。今現状は、小牧南小学校ですとか味岡小学校のような、これからどどんにぎや

かになるところに若い人は行って、その小学校は教室が足りなくて、桃花台の小学校は教室が余っちゃっている状態で、これを何とかしたいというのもあるかもしれませんが、外国人のお話を先ほどされた方がいらっしゃるんですけども、若いお母さんは嫌なんですよ、外国人がいると。残念ながら、桃花台が15年ぐらい前にちょっと荒れていた、もうちょっと前かな、20年ぐらい前に荒れていた時代があるんですけど、いまだに桃花台の中学校は怖い中学生がいると思っている若い奥さんはいっぱいいるんです。

じゃあどうしたらいいかという、外国人の方とうまく仲よく暮らしていっているよというアピールをしなきゃいけない、その中で例えば、特に桃花台のエリアでは英語の勉強をほかよりも一生懸命頑張って、それが功を奏して例えば進学率が上がるという、お子さんのことが大事なお母さんにアピールできるような、そんな教育を頑張っているという、そういうアピールができると、住む理由が1つ増えるんじゃないかなと、そんなことをお願いしたいなあと思います。

【会長】 分かりました。ありがとうございます。

空き家流通について、和田委員、何か今の発言にコメントがございませうか。いかがですか、御専門の立場から。

【和田委員】 おっしゃっていただいている予備軍という人たちをいかに拾っていくかという、空き家になる前に対応していくというのが重要だなと今お話を聞いていて思っていました。僕らもそこには他自治体と一緒に取り組んでいっていることもあるので、そういったことを事例としてインストールすることができるのかなというのが1点と、あとは住みたいまちになるというのを、三木委員はすごくいいことをおっしゃっていたなと思いました。ウエルカムな状況というのは、地域に人を増やしていくというときに非常に重要になってきて、よそ者が来たら、村八分とまでは言いませんけど、なかなか入りにくいという環境というのは、特に桃花台ということだけではないと思いますし、僕らが携わっているところでも地方に行けば行くほど、そういう問題というのがあり、せつかくいい環境でいいところで住みたいと思っても、なかなか住みにくい。住んだはいいけれども、打ち解けないから、また出て行ってしまふ。こういう課題というのは往々にしてございませう。そこを今おっしゃっていただいたように、東部のエリアの皆さんがウエルカムな雰囲気、まちをよくしていくんだとか、未来のまちづくりをしていくみたいなどころや、先ほどのダイバーシティ、外国の方たちとの英語を頑張るって学力を上げていく、いわゆるナチュラルなインターナショナルスクールみたいになっていけば、子供たちというのは大人よりもハードルが非常に低いので、勝手に友達になって、英語もしゃべれば、韓国語もしゃべれば、中国語もしゃべれるみたいな状況になっていく。実はうちの息子、娘の通っていた学校も公立なんですけど、やっぱり外国の方が多学校だったので、僕らより偏見はないです、打ち解けていきますし、そういう環境って非常に必要だなと。

そういうのをアピールしていくことによって、勝手に子供たちがそういうふうにはハードルを下げてくれて、住めるところであれば住みたいねというようにつながっていくというのと、あといきなり移住・定住というのは難しいというのは、どこでもそうなんですけど、もう一つの考え方として関係人口創出をしていく。関係人口って最近よく言われていますけれども、要はそこに遊びに来る、もしくはお試し移住ができる、こういう場所をつくる。そこにテレワークや今、リモートワークと言われてるものが発達していっていますので、先ほど僕が少しお話した、農業という文脈なの

か、高齢者という文脈なのか、ともかく1つ打ち出せるもの、掛ける移住、掛ける関係人口創出、掛ける教育みたいなところに持っていければ、東部というエリアは、すごくポテンシャルがあると思っているので、さらにその地域の方々がウエルカムに胸襟を開いて迎え入れていただく環境さえつくれば、今打ち出す時期でありますし、すごくいいタイミングでありますし、空き家問題もなだらかにうまくいくんじゃないかなと、解決していくんじゃないかなと思いました。ありがとうございます。

【会 長】 ありがとうございます。

今おっしゃったので、私の住んでいる泉北ニュータウンも、日本語で授業ができないような小学校があります。それぐらいベトナム、中国、台湾の外国人が非常に多くなっています。そこで一番の問題は、お子さんは比較的、共生力が対応力はすごくあります。むしろ御両親の言葉のハンディキャップをどうフォローしていくのかみたいな、そういう政策みたいなやつが非常に重要だと言われていまして、お子さんを通じて御両親をどうその地域に共生していただくかと、そんなことを考えることも必要だみたいな議論を泉北ニュータウンなんかではしております。ちょっと参考のために申しました。

他いかがでしょう。もう少ししか時間ありませんが、発言されていない、藤村さん、渡邊さん、柴田さんぜひとも一言ずつでもいいですから、発言をお願いします。

渡邊さん、どうぞ。

【渡邊委員】 私は桃花台に住んでいますが、一番の問題点は、陸の孤島と言われていて、車がないと行動しにくいというのが人離れを加速していると思います。今後、高齢者の方の足が免許返納になると大変になるので、そこをもう少し整備してもらえると、皆さん楽しく住めるし、例えば小牧駅に行くにも、桃花台の人は直接行けるんですけど、ほかの地区で池之内というところは、味岡を経由して、そこからもう一回乗り換えないといけないみたいなので、もっとスムーズに、駅とか、病院とか、ショッピングとか、直接スムーズに行くことを考えてあげると住みやすくなると思います。あと大人の学校みたいなのを名古屋造形短大の跡地や今、子供がすごく少なくなっているので小学校を統合し、その空いたところにそういう学校を造って、みんなが勉強できたり子供が集まったりできる場所ができるといいんじゃないかと思います。

【会 長】 ありがとうございます。

多分、交通に関しては、個別交通をどう公共的に考えていくか、デマンド交通みたいな。その辺りは非常にいろんなところで言われていて、なかなか起死回生の答えがない。従来までの福祉バスとかコミュニティバスではなくて、デマンド交通に対してどう個別に対応できるか、それを公的にどうできるか、あるいはコミュニティーとしてそれをサポートできるかと、その辺りについてはぜひとも考えていく必要があるかと思います。ありがとうございます。

藤村委員、どうぞ。

【藤村委員】 先ほどの交通の便に関しての発言と同じなんですけど、私は下末に住んでいますが、高齢者の方というより、偶然にも私の息子が高校1年生になりまして、高校に通うのに小牧駅に行かなければならないんですけれども、1時間に1本しかバスがないので自転車ということですが、

安全な道がありません。交通の便が悪い上に、駅まで自転車で安全に通える道がないので、少し過保護ではありますが、朝も早いことですし、車で送っていくことをせざるを得ないんです。

私はこちらに住んで20年ぐらいになるんですけれども、結婚する前は大阪市内に住んでいたもので、駅まで5分だし、電車も2分に1本とか来るといような環境でずっと住んでいたもので、自分の高校生の時と比べると、高校生として、辛いなみたいな感じのところがあります。それでも住みたいと思える何か魅力がないと、子育てするのに駅の近くに住んであげたいとか、そう思うので、子育て世代としては、もう少し交通の便の悪さが解消できないんだったら、何か魅力が別の意味であるまちでないと、子供にこのままこっちに住みなさいとは言ってやれないなというふうに感じます。それを改善できるものの何か魅力を打ち出せたらいいかなと思っています。

【会長】 なるほど、分かりました。皆で知恵を絞って、ここならこそその魅力みたいな話を少しでも発信できればと思います。ありがとうございました。

柴田委員、いかがでしょうか。特にございませんか。いかがでしょうか。ちょっと一言でも。

【柴田委員】 私、3人小学生の子がいます。私自身、桃花台に住んで30年ほどにはなりますが、桃花台はとても環境もよくて住みやすいところだと思います。子供がよく行く児童館や、温水プールは、子育て世代にはとてもありがたい施設だと思います。今言われたとおりに、交通の便は確かに悪いと思います。私が子供の頃はピーチライナーが通っていたので、小牧駅もアピタから乗れましたが、今はピーチライナーがなくなってしまったので、子供はどうしても車で送る、高校生もバスとか時間を気にして乗らなきゃいけないので、交通の便がもう少し良くなれば、他の方も住みやすいのではないかと思います。

【会長】 ありがとうございます。

あといかがでしょうか。蛭原委員。小柳委員、少しお待ちください。

【蛭原委員】 僕、いろいろずっと聞かせてもらっていて、多分皆さん、まちづくりに長きにわたって携わっている方々の理解と話があったのでスムーズにいつているのかなと思ったんですけど、例えばそういう形でまちづくりになかなか携わってきていない方だと、言葉がそもそも難しい言葉が飛び交っている気がして、風呂敷を広げて意見を吸い上げようという場かもしれないんですけど、もうちょっと言葉をかみ砕いて進めてもらうことも大事なのかなと1つまず感じて、なかなか意見が出る方は出るんですけど、出づら方は本当に出づらい。例えば思ったことの感想しか言えないのかなというのをまず1点感じたのと、まちづくりをしていく中でヴィジョンというものが今つくられていて、5原則だとか、こういった体系図というんですかね。多分、意見が最初のほうで出ていたみたいに、すごい幅広過ぎて、どこをどうしていきたいのかなというのもあまり見えてこないもので、なかなか意見しづらかったなというのが正直なところなんです。

風呂敷を広げる場ということで市長もおっしゃっていただいたので、先ほど言ったヴィジョンの2で言うのであれば、高齢化が進んで後継者不足という話も出ていましたが、東部地域は桃が有名で、それはすごい魅力でもあると思いますので、そういったところに若者をあえてぶつけるのもありだと思っています。というのは、僕の周りの経営者の方が、将来的には皆さん、土いじりに戻るというようなことをよく言われます。最近、農業に手を出され始めた全く業種の関係ない経営者の

方や、やろうかなと言っている方はすごい多くいまして、そういった方々も業種とは関係なく農業に携わるに当たって後継者に成り得るかもしれませんし、若い方であれば、先ほど和田委員が言っていたみたいにテレワークも今進んできていて、別に職場に行かなくても仕事ができる環境、ネットワーク、Wi-Fi一つあれば仕事ができるので、農業とテレワークとかというもののハイブリッドな働き方というのも今の若い世代にはとても生きてくるのかなと思うので、そういった形でちょっと進んだとか面白いまちづくりというものも行政の方からのサポートなどがあれば、いろいろできるのかなというのを思いました。風呂敷を広げるつもりで言いたいことを言わせてもらってすみませんが、よろしくお願ひします。

【会長】 ありがとうございます。

非常に大事な視点ですので、極力変な専門用語にならないようにとか、極力分かりやすいようにというような形でやっていきたいと思ひます。

特にこういう会議で、基本的には前の言った人の言ったことに対して悪乗りしながらアイデアを広げていくというのが非常に大事で、前の言った人を否定するのではなくて、悪乗りしながらどんどんアイデアを広げていって、最終的にはもう一度絞り込みが必要ですが、アイデアを広げていく段階というのも非常に重要なので、今日いただいたような形で展開できればと思ひています。

大塚職務代理には、最後にまとめて御発言いただきたいと思ひますので、小柳委員どうぞ。

【小柳委員】 ヴィジョンとして出されましたが、これを一つ一つ具体的にするという事はなかなか大変だと思ひます。というのは、例えば人口は、少子化高齢化というのは東部地区だけではなくて全国的な問題ですね。したがって、そういう問題を抱えながらどうするかということでは進めないといけないと思ひます。

この一つ一つを見ますと、例えば、僕は農業じゃないんですけど、桃花台の住人ですけど、桃とブドウという書き方がヴィジョンの中にしてあります。しかし、一方で見ますと、実は放置された農地というのがどんどん増えておるんですね。ですから、桃・ブドウも後継者がなければどんどん減ってしまうし、そこら辺の、せつかくヴィジョンで書いても、この辺をどうするかということがこれからの課題になります。したがって、このような文章を書かざるを得ない、ならどうするかということが、この場の話合いになってくると思ひのです。

それからもう一つは、外国の方のお話なんですけれども、実は一番多く学校に通っておるのが味岡小学校が1番で、その次が桃ヶ丘小学校が2番目なんです。去年のデータですけど、79名おられます。かつてはブラジルの人たちだけだったんですけども、先ほど会長がおっしゃったように、8か国ぐらゐの生徒がおるんです。中学校が四十何名です。ですから、今、僕はこの問題を捉えて、先ほど三木さんからちょっと怖い雰囲気があるよという発言がありましたが、事実そのとおりです。ですから、そういうことを放置するのではなくて、私ども地元に住む人間としては、それをどうして解決していくかということをお考えさせてもらっています。多文化共生ということで、これは個人でできるわけじゃないですから、学校を通じて、校長先生とはちょっと話をして、生徒10人ぐらゐと地域の僕たちと話合いをして、ここに来てどうだと、問題点はあるかというような話をする機会を与えてくれという話はもうしてあります。

それからもう一つは、若い者が地域に魅力を持つためにということで、これも実は学校との話合いを私自身も進めています。ですから、桃花台を考える会もやっていただひていますが、私

自身も話をし、一定の資料を提出して、先ほど言いましたけれども、このような状態で、隣も知らない、あちらも知らない人が力を合わせて今日があるよと。その中で高齢化になったので、今度はあなたたち、若者たち、どうですかというような話をする機会を、学校は社会科の勉強の中で3年生を対象にしたいという話のところまで来ています。

ヴィジョンは大変書き方としては難しいですけども、一つ一つ整理をしながら、地域の一人としてどうするかということを考えていくことが極めて重要だと思っています。

【会長】 分かりました。ありがとうございます。

少しマネジメントが悪くて時間をオーバーしそうなので、そろそろまとめで、最後に大塚職務代理から御発言いただきたいと思いますが、どうしてももう一言はしゃべっておきたいという方はいらっしゃるでしょうか、いかがでしょう。

会場、よろしいでしょうか。

リモートで参加していただいているお三方、いかがでしょう。どうしても最後の御発言みたいなことはございますか。いかがですか。よろしいですか。大丈夫ですか。

分かりました。ありがとうございます。

そしたら、大塚先生、いかがでしょうか。

【大塚委員】 やたらハードルが上がった感じがします。

2点だけ発言させていただきます。まず1点目は、三木委員がおっしゃられたことに関連しますが、このヴィジョンの3の取組の3-②のところに、アットホームな雰囲気のあるまちの創出とありますが、このアットホームなところ、本当にこれでいいのかということは検討しないといけないと思います。基本的には新たな住民を呼び込むための取組ということで、どういう人たちがここに来てくれるのかを考えると、多様なライフスタイルを実現できる、そういう環境、条件が整っているところではないかなと思います。

ヴィジョンの1が多様な世代が暮らし続けられる環境が整っていること。住む、暮らすは、環境も整ってサービスも充実しているというのがあって、同時にヴィジョン2のほうで働く場所というのは、名古屋にも通勤でき、他にも職住近接で、そこに住みながら新しいビジネスを始めたりするような材料とか、そうした資源も周りにたくさんあるということ。多様な人たちがいるわけで、そういう新しい住まい方を実現したいと思っている人たちが来てもらえるようなまちにして、アピールをしていくのと同時に、さっき和田委員もおっしゃって見えましたが、ウエルカムな状態にすることが必要だと思います。

しかし、アットホームがウエルカムな状態なのかと、そこら辺はちゃんと、新しい多様なライフスタイルを実現したいと思っている人たちを地域全体でみんなで応援していきますよと、そういうまちですよというようなアピールの仕方がいいのかなというのがまず1つです。

2つ目は、進め方について今日皆さん、結構御意見があったようですが、私としては、この参考資料の2で体系図というのがありますが、今日いただいた話というのは、ハードであろうと、ソフトであろうと、個々具体的な内容としては、今後の一番右の取組の方向の中に具体的なものとして入ってくるのかなと理解しています。今はヴィジョンなので、一応幅広くここで上げておかないと、将来的にそういう方向で本当にやりたいと思ったときに実現はしないです。誰もそこで声を上げない限りは実現できないので、やはりここに濃淡はあろうと思いますが、網羅的に書いておくという

のは必要ではないかと思えます。皆さんの議論が活発になって、特定の分野に話が偏ったりしたら、それは特に重要なことだと思えますので、アクションプランとかの具体的な計画のほうに反映させていけばいいのかなと思っております。

【会 長】 ありがとうございます。

少し時間をオーバーしましたがけれども、私なりに少しまとめに、次の展開論に向けてお願いしておきたいことがあります。ここに書いてある取組の方針、途中で秦野委員からもありましたように、かなり総合的に書いています。今までの市役所の顔を見てもらったら、道路課があつたり、公園課があつたり、住宅政策課があつたりとか、福祉課があつたり、教育課があつたりとかいうふうに、全部そういう行政施策の体系に基づいてまとめられているんじゃないし、むしろ総合的に書かれているんですね。

高齢者が安心して暮らせる環境の整備と。これはまさにハードとしての住宅をどうするかとか、買物に対しての移動環境をどうするかとか、あるいはバリアフリーをどうするかというような話と、同時にそれを支える地域福祉であつたり、コミュニティー政策であつたりというのがあって初めて高齢者が安心して暮らせると。あるいは、生涯学習なんかも含めてだと思えます。

かなり総合的に書いていますので、次の段階の取組の方向を書くときには、少しそういうことも背景に考えながら、ハードとして、あるいはソフトとして何ができて、それが一体どういう主体がやれるのかと。行政単独でできるのか、あるいは行政と市民との協力の下でないといけないのか、あるいは市民さんだけでもできることなのかとか、少しそういう主体は誰かということも意識しながら、こういう取組の方向性みたいなやつが一度網羅的に出せればと思います。その中からある意味、ひょっとしたらアクションプランにつながっていくのかもしれませんが、さらにそこに横渡りするような重点政策みたいな形で何個か、これだけはこの5年間にやり遂げる重点政策的みたいなものを統一的に3つとか4つ上げるかどうかと検討していきたいと思えます。

その辺の議論もしながらと思うんですけど、今回はそこまで行かないと思えますので、この取組の方向は、今みたいなことを意識しながら、今日、かなりいろんなキーワードをいただいていますので、いただいたキーワードを、この1から3のヴィジョン、あるいは基盤を含めて、4のところを全部一度当てはめていただいて、それが具体的取組にどうつながっていくのかというのを整理させていただいて、次回ここでもう一度その議論をきっちりできたらと思えますので、事務局のほう、ちょっと整理が大変かもしれませんが、よろしくをお願いします。

非常に雑駁なまとめですけれども、次回に向けてということでお許しいただければと思います。

議論をしたら、必ず次回もう一度同じ議論をして収れんさせていくようなやり方で案を煮詰めていきたいと思えますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

少し司会進行がまずくて10分オーバーさせていただきましたけれども、事務局のほうにお返ししたいと思うんですけど、その他は何か事務局ありますか。どうですか。

【事務局】 特にございません。

【会 長】 皆さん方はいかがでしょう。よろしいでしょうか、その他。

御協力、ありがとうございました。

そしたら、私の役割を終えて、事務局にお返ししたいと思います。

【事務局】 委員の皆様、本日はお忙しい中、長時間にわたりまして議論をいただきまして、ありがとうございました。

なお、本日の会議の会議録につきましては、作成次第、委員の皆様へ送付をさせていただき、内容の確認をしていきたいと考えておりますので、御協力のほうをお願いいたします。

以上をもちまして第2回小牧市東部まちづくり審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

【了】